

クリ「ぼろたん」の幼木期における結果母枝の切り返し時期

クリ「ぼろたん」の幼木期における結果母枝の先端 5 分の 1 切り返し処理は、時期が早いほど生育期も早くなるが、晩霜常襲地帯では、発芽・展葉期が早くなりすぎないように、3 月下旬頃に切り返し処理を行う。

農業研究センター球磨農業研究所 (担当者: 中尾郁美)

研究のねらい

クリ「ぼろたん」では、幼木期に着穂数を多く確保しながら早期成園化を図るため、せん定時に結果母枝の先端部を 5 分の 1 切り返す方法が効果的である (農業研究成果情報 No. 528 (平成 23 年 5 月))。しかし、処理時期によっては晩霜害を受けて着穂が不安定になることがある。そこで、切り返しの処理適期を明らかにする。

研究の成果

1. 幼木期における結果母枝の先端部 5 分の 1 を切り返す時期としては、処理時期の早い 12 月下旬、1 月下旬区が、3 月下旬区や無処理区と比べ、発芽期で 8 日、展葉期で約 3~4 日程度早くなり、晩霜被害の危険性は高まる (表 1)。
2. 収穫時期も、12 月下旬、1 月下旬区が、3 月下旬、無処理区に比べ、収穫始期で約 5 日、収穫盛期で 3 日程度早くなる (表 1)。
3. 発芽期となる 3 月下旬に切り返し処理を行っても、雌花数・着穂数の減少はみられず、次年度の結果母枝候補枝も他の処理区と同等以上確保できる (表 2)。
4. 結果母枝の先端部 5 分の 1 切り返し処理区は、無処理区に比べ、樹齢 4 年生までは収量が多いが、5 年生になると、雌花数、収量とも少なくなる傾向がみられる (図 1)。

普及上の留意点

1. クリでの切り返し処理は、あくまでも幼木期における技術であり、成木になるにつれて雌花数減少などの生産不安定につながる恐れがあるため実施しない。
2. 本試験は、球磨農業研究所 (あさぎり町) の表層多腐植質黒ボク土での調査結果である。

表1 幼木期における結果母枝の切り返し時期が樹体生育及ぼす影響

処理区	発芽期	展葉期	収穫 始め	収穫 盛期
12月下旬	3/13	4/8	9/6	9/15
1月下旬	3/13	4/7	9/4	9/15
2月下旬	3/16	4/10	9/7	9/16
3月下旬	3/21	4/12	9/10	9/18
無処理	3/21	4/11	9/10	9/18

注1) 処理方法: 結果母枝の先端5分の1を切り返す。

2) 2011年～2013年の平均値(6樹/処理区)

3) 発芽期: リン片の基部に緑色のみえる芽が10%に達した日。

4) 展葉期: 調査した結果母枝のうち、先端の芽の第1葉が展葉した枝が20%に達した日。

表2 幼木期における結果母枝の切り返し時期が雌花数、着穂数および次年度の結果母枝候補枝数に及ぼす影響

処理区	雌花数 (個/本)	着穂数 (個/本)	着穂率 (%)	次年度 結果母枝 候補枝数 (本)
12月下旬	5.2	3.8	72.7%	2.8
1月下旬	4.8	3.2	67.7%	2.7
2月下旬	5.3	3.6	66.8%	2.5
3月下旬	5.4	3.7	68.7%	2.8
無処理	4.8	3.7	77.5%	2.7

注1) 処理方法: 結果母枝の先端5分の1を切り返す

2) 2011年(3年生)～2013年(5年生)の平均値

3) 調査時期: 雌花数(6/10)、着穂数(7/20)

4) 雌花数、着穂数: 1結果母枝当たりの個数

5) 着穂率: 雌花数/着穂数×100

6) 次年度結果母枝候補枝: 長さ30cm以上の充実した枝(1結果母枝当たり)

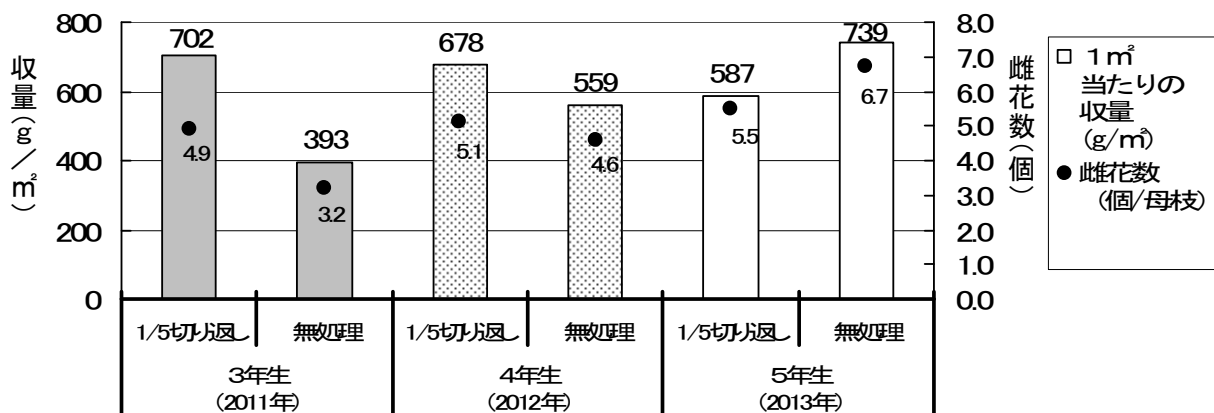


図1 切り返しの有無による雌花数および収量の年次変化

注1) 調査年: 2011年(3年生)～2013年(5年生)の3カ年

2) 雌花数の調査日: 6/10

3) 1m²当たりの収量(g/m²): 総収量(g)/樹冠占有面積(m²)